

# 領域やクラスによる LAS ポイントの抜き出し

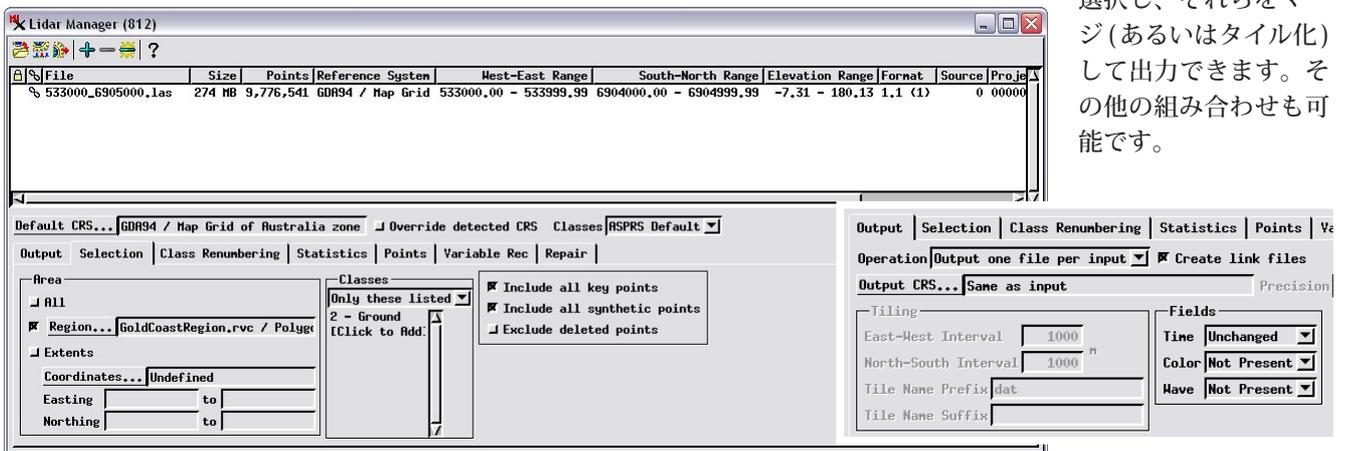
TNTmips Pro では Lidar マネージャ ([地形 (Terrain)]> [Lidar Manager]) を使用して、1つまたは複数の LAS ファイルからポイントを抜き出し、それらを1つまたは複数の LAS ファイルに出力することができます。(テクニカルガイド「LIDAR: LAS ポイント点群データの管理 (LIDAR: Manage LAS Point Clouds)」で処理の概要を説明しています)。全入力ポイントや領域やクラスで限定して抜き出すことができます。

抜き出し用のポイント選択パラメータは [選択 (Selection)] タブパネルで指定します。抜き出す領域は既存のリージョンオブジェクトを選択したり、座標を入力して矩形範囲を指定します。矩形の抜き出し範囲はサポートされているどの座標参照系でも使用可能です。[選

択] パネルのクラスセクションでは Lidar ポイントのクラスを選択してクラスリストを作成し、選択条件を決めることができます。このリストを使って、抜き出すポイントクラスに含めたり (クラスメニューから、「リストアップされているポイントのみ (Only these listed)」を使用)、抜き出すポイントから除外 (「リストアップされているポイントを除く (All except listed)」を使用) できます。

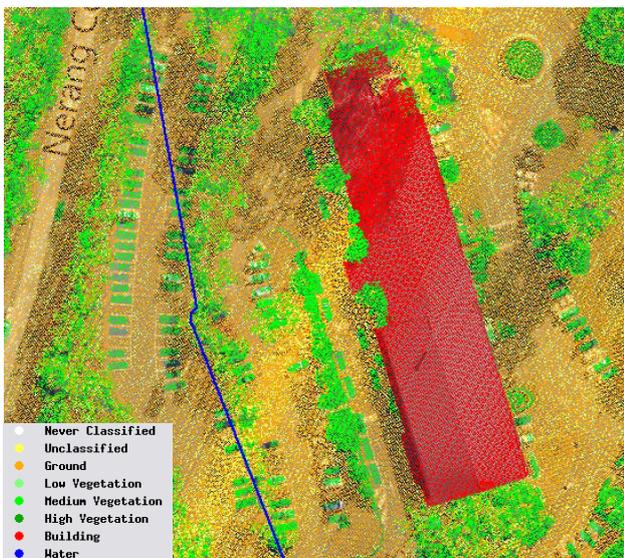
ポイント選択の操作は Lidar マネージャのマージやタイル処理と組み合わせて使えます (テクニカルガイド「LIDAR: LAS 点群データのマージとタイル化 (LIDAR: Merge and/or Tile LAS Point Clouds)」)。例えば、個別の入力ファイルから各出力ファイルへポイントを抜き出したり、複数の入力ファイルからクラスでポイントを

選択し、それらをマージ (あるいはタイル化) して出力できます。その他の組み合わせも可能です。



[選択] パネルでは領域とクラスでポイントを抜き出すことができます。抜き出す領域は下図のようにリージョンオブジェクトを使ったり、任意の座標参照系で矩形の範囲を指定します。クラスのリストを作成して、抜き出しの際に含めたり除外することもできます。この例では、地面 (Ground)

のクラスのポイントを抜き出すよう設定しています。この例では [出力 (Output)] タブパネルで設定する [オーバーレイション (Operation)] は「入力ファイル毎に出力 (Output one file per input)」を使っています。



左上：クラスでスタイル付けした分類済み Lidar ポイントファイルの TNTmips 表示。この領域には大きな建物 (赤のポイント)、植生 (緑)、駐車場と道路が含まれています。左下部分にポイントの色の凡例が置かれています。背景の参照レイヤは Bing Maps のラベル付き航空写真です。青い線はリージョンオブジェクトの境界で、Lidar マネージャで線の右側の地面のポイントを抜き出すよう指定されています。右上：抜き出した地面のポイント (茶色) の出力 LAS ファイルの TNTmips 表示。リージョンの内側の地面ポイントだけが抽出されています。